

日本リハビリテーション病院・施設協会・全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会／編集

『回復期リハビリテーション病棟—新しいシステムと運営のしかた』

福田道隆

(青森県立保健大学理学療法学科教授)

障害のある人々が地域で安全に、安心して自立した生活を送るための施策が整備されてきた。その一翼を担う理学療法士の地域リハに対する認識はまだ十分とはいえず、養成校における地域リハ教育体制の取り組みも不十分である。このような現状で、本書をひもといてみると以下のことが明らかになる。

地域リハシステムの考え方、リハに関する診療の情報(病院経営からみたリハ病棟、診療報酬、入院料、効率的運営のための対応)、時期別リハ医療サービスの流れなどが要領よくまとめられ、リハ診療報酬体系などの基本的な考え方がよく理解できる。

「チームアプローチのための情報共有」の項目では、効果的なチームアプローチのための6要件を示しながら、回復期リハ病棟におけるチームを組織・職種に応じて4つに分類し、情報共有の場と共有内容を整理している。

回復期リハ病棟におけるスタッフの役割(医師、看護

職、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケアワーカー、栄養士、薬剤師など)について詳細に述べられており、特に理学療法士の役割として、①これまでの訓練室中心での機能訓練からの脱却、②障害を有していても生活や社会参加への能動的な実践、③個別・多様化したADL・生活への対応重視、などを強調している。モーニングケア、イブニングケアでの業務として起居移乗ケア、食事ケア、更衣ケアがあり、理学療法士は早期より装具の適応や歩行補助器具を使用し、実用的な歩行能力の向上を図り、車いすからの離脱を目指したアプローチを行うべきであるとしている。さらに、体力・持久力向上のため、トレーニングマシンを利用したトレーニングメニュー、負荷量などを設定し、理学療法アプローチの一環として効果を紹介している。

回復期リハ病棟の重症度、在院日数、転帰などを考慮して作成されたパス(2か月コース、3か月コース)、急性期病院からの迅速な入院を実施するための方策、急性期病院(病棟)から回復期リハ病棟への要望、維持期リハとの連携のあり方なども記載されている。

本書は地域リハのシステム(制度・医療保険)、リハの流れ、時期別リハサービスのあり方、連携のしかたなどが記述されており、地域リハを理解するうえで必須な良書である。

●B5判 180頁

定価 2,625円

2003年 三輪書店・刊